

あすのちばを拓く10のちから（改定版）

（平成18年3月改定）

この「あすのちばを拓く10のちから（改定版）」は概ね5年から10年を見通す中長期の基本方針であり、今後、これに基づき、県民のみなさんをはじめ、市町村、企業、住民活動団体・NPO など幅広い主体との連携と協働のもとに県政を展開していきます。

1 目指すべき千葉県の姿

千葉県の持続的な発展と県民一人ひとりの幸せ

私たちが目指すのは、

県民一人ひとりが、豊かさを実感し、理不尽な理由で、つらく悲しい思いをすることなく、自信と誇りを持って暮らせる千葉県であり、経済的にも文化的にも高い水準を維持し、発展し続ける千葉県です。

2 県政運営の基本理念

県民と行政の協働による分権型社会の実現 ー千葉主権の確立ー

3 10のちから

- 1 生きるちから
- 2 とともに育つちから
- 3 みどりのちから
- 4 発展する経済のちから
- 5 大地と海の恵みのちから
- 6 観光客を魅了するちから
- 7 くらしを守るちから
- 8 つなぐちから
- 9 世界にひらくちから
- 10 自治のちから

＜最重要課題と施策展開の方向＞

「生きるちから」を進める原動力は600万県民の思いです。その思いを真摯に受け止め、住民と行政の協働による「新しい地域社会」、誰もが理不尽な理由で辛く悲しい思いをすることのない「新しい地域社会」、個性と活力あふれる「新しい地域社会」を目指し、21世紀型の地域民主主義（住民主権）を確立します。そのためには、生活圈や市町村といった地域の中で、毎日の健康づくり、医療、福祉が進んでいくことが重要です。

具体的には、地域と企業（職域）の取組が融合した生涯を通じる健康づくりと疾病予防、病院と診療所の役割分担・連携による循環型地域医療連携システムの構築と緊急時に備える救急医療や災害医療体制の確保、子ども、障害者、高齢者等の対象者毎の様々な福祉サービスを地域のレベルで融合し、高齢者や子ども、主婦等が街に出て人の声と活気が溢れる地域社会、地域で不足しているサービスの創出、次世代を担う子ども達や高齢者、障害者を支える地域社会づくりを進めます。また、これまでの地域福祉の担い手、新しい地域福祉の担い手、就労、教育、農業、漁業、環境等の福祉以外の担い手が協働する「地域福祉フォーラム」について、市町村との協働により、小学校区や中学校区等の生活圈単位、市町村単位での設置を進めます。

「生きるちから」の源は地域社会にあると考えます。子育てから健康づくり、医療、福祉の各施策・サービスについて、地域社会を軸とした融合を進めます。